



2024 年 1 月 20 日発行

拝啓

あけましておめでとうございます！

新しい年が始まりましたね。みなさんは今年の目標はありますか？

何も思いつかないと悩んでいる方はぜひ、図書館に足を運んでみてはいかがでしょうか。新しい情報や知識を手に入れることで、新たに挑戦したいことができるかもしれません。寒さに気を付けて体調管理はしっかりしましょうね！

みなさんが成長できる年でありますように。

かしこ

--今月号のラインナップ--

Calendar

2024 年 2 月～ 3 月カレンダー

LiLian Special Info.

気になる料理本特集

今月の一冊

『君は永遠にそいつらより若い』

LiLian Interview

太田正登先生（国際情報学部 国際情報学科）



2024年2月～2024年3月 カレンダー

2月

◎ 8:30～20:00 ○ 9:00～16:30

日	月	火	水	木	金	土
				1 休館	2 休館	3 休館
4 休館	5 ○	6 ○	7 ○	8 ○	9 ○	10 ○
11 休館	12 休館	13 ○	14 ○	15 ○	16 ○	17 ○
18 休館	19 ○	20 ○	21 ○	22 ○	23 休館	24 ○
25 休館	26 ○	27 ○	28 ○	29 ○		

3月

◎ 8:30～20:00 ○ 9:00～16:30

日	月	火	水	木	金	土
					1 ○	2 ○
3 休館	4 休館	5 休館	6 休館	7 休館	8 休館	9 ○
10 休館	11 ○	12 ○	13 ○	14 ○	15 ○	16 ○
17 休館	18 ○	19 ○	20 休館	21 ○	22 ○	23 ○
24/31 休館	25 ○	26 ○	27 ○	28 ○	29 ○	30 ○

※ 3/4～3/8 蔵書点検のため休館

最新情報はHPを
ご確認ください →



LiLian Special Info.

♪気になる料理本特集♪

冷え込みが厳しい日が続いていますね。皆さんが体調を崩さないように気をつけていることは何でしょうか。暖かくする、熱いお風呂に入るなどいろいろあると思いますが、寒い時期に嬉しい温かい料理はいかがでしょうか？図書館で見つけた料理の本を紹介します！

『簡単！毎日楽しめる！スープの本』 角田真秀/著

閲覧室 2F(読書コーナー) 596/Su58

少ない調味料とうま味のつまった食材を使い、とびきり美味しいスープを作れたら・・・そんなレシピがこの本にはつまっています。主材料別でまとめられているのでメインで使いたい食材からレシピを探せます。

『これでいいんだ！自炊ごはん』 市瀬悦子/著

閲覧室 2F(読書コーナー) 596/I17/2

下ごしらえの方法や料理を作る手順が写真付きで解説されているので初心者の方でも安心！豚のしょうが焼きなどの定番メニューのほかにもすぐに作れるレシピが131品載っています。

『おかずスープ』 藤井恵/著

閲覧室 2F(読書コーナー) 596/F577

白いご飯に良く合う、肉や野菜を加えた具沢山のスープのレシピがたくさん。寒い冬に、気分に合わせて、栄養満点のスープはいかがでしょうか？

いかがでしたか？

気になる本はありましたでしょうか。

気になった一冊（料理）があったら

ぜひ手に取ってみてください。

(ゆい)



*** 今月の一冊 ***

『君は永遠にそいつらより若い』 津村記久子/著

913.6
Ts745
3
B5

閲覧室1F(文庫・新書)

大学卒業を間近に控え、就職先も決まり、大学・バイト・下宿の3点で毎日を送る主人公ホリガイ。退屈な日々に隠れている悪意に対し、他人の感情に寄り添うのが苦手な彼女が不器用ながらも一つ一つと向き合う姿が描かれています。周囲の目を気にしすぎて、言いたいことも言えない今だからこそ胸に響く物語だと思います。明日に対してわずかな希望を持てる、そんなホリガイの姿を是非見届けてください！

(りさ)





LiLian Interview

大すきな先生に
インタビューに
行こう 58

国際情報学部 国際情報学科 太田正登 先生

Q. 先生の専門分野・政治学ではどのようなことを研究されていますか？
研究される中で面白いことは何ですか？

政治学の中でも国際政治学、国際関係論という学問分野で、戦後のイギリス外交、大英帝国の解体から EU 加盟までの過程を研究しています。外交史を研究していると外交文書を読めるのが楽しいです。現代史では、自身の歴史と世界の流れがオーバーラップすることがあって面白いですね。新婚旅行を機に外貨定期を作り、最初は金利がとても良かったのですが、1985 年のプラザ合意によるドル暴落で大損となりました。もっともそのおかげで 49 年のポンド切下げに着目し、研究の新たな視点を見出せました。

Q. 政治学を研究されることになったきっかけは何ですか？

法学部に入り大学 2 年になった頃に父が倒れ、寺の長男として後を継ぐ覚悟をしました。その時ゼミでお世話になっていた国際政治の先生に、仏教学を勉強するという意思を伝えると、「坊主が坊主のことやるのは当たり前。もっと変わったことをやりなさい」と言われました。父に似たことを言う先生で、元々面白いなと感じていたのです。国際政治はキリスト教中心で、当時クリスチャンの先生が多かったのですが、「仏教徒が見た国際政治をやってみないか」とその先生に誘われ、今に至ります。

Q. 学生時代で最も記憶に残っていることは何ですか？

法社会学の先生の下で、下書き原稿の清書をするアルバイトをしていました。結構ワイワイガヤガヤ楽しくやっていたのが思い出です。「よく学びよく遊べ」です。名古屋大学と県立大学の合同ゼミで、八ヶ岳に合宿したことも思い出です。名古屋大学の学生は全員男子なのに対し県立大学はほとんど女子でした。発表の時は

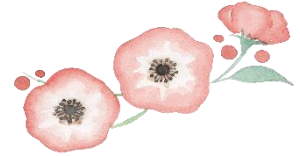
対面で席に着き、ふと前をみると女子ばかりだったので、みんな顔を真っ赤にして下を向いて…まるで集団お見合いのようでした。

Q. 先生の趣味や特技が気になります。休日はどのように過ごされていますか？

写真が好きでよく撮りに出かけます。今はカメラやレンズを集めるのも趣味で、昔欲しかったレンズなどが気になり、あれこれと買い足しています。

また、本もゆっくり読んだりします。

Q. 尊敬する人物や偉人について教えてください



好きだったのはケネディ大統領です。

彼の大統領就任演説の一節である “ Ask not what your country can do for you, ask what you can do for your country.”（あなたの国があなたに何をしてくれるかを問うのではなく、あなたがあなたの国のために何ができるかを問うてほしい。）という名言は当時、若者の支持を得ました。小学 2 年の時の暗殺直後の衛星生放送は、今でもよく覚えています。

Q. 今までに影響を受けた本・お好きな本について教えてください

大学のゼミの先生に勧めてもらった、森嶋通夫『イギリスと日本——その教育と経済』です。当時イギリスは、先進国で社会福祉が進んでいるゆえに働かない人が増加し、経済が悪化しているように見えた（イギリス病）、そんなときに書かれた本です。オックスフォードやケンブリッジなどの大学に世界中から学びに来るのになぜ経済が成長しないのかという考えに対し、大学はとても熱心で、アットホームな雰囲気、授業も先生の話も面白くて豊か、そんな先生に憧れた学生は研究者を目指し、実社会に出ようと考える人が少なくなって、経済パフォーマンスが悪く見える。しかしその質はすごく高いということを説きました。

次に、精神科医で作家でもある、なだいなだの『民族という名の宗教』です。人類の発生から、なぜ人は集団になるのか、人間は一人じゃ何もできないから集団で狩りをするようになり、その統率のために言葉が生まれたということが、先生と生徒の対話形式で書かれています。

ユン・チアンの『ワイルド・スワン』は、親子 5 代にわたって中国の歴史に振り回された家系の話です。彼女の父親は共産党員でしたが、毛沢東と考え方が違うということで追放されてしまいます。中国のことを知りたい人におすすめの本です。

Q. 金城学院大学で一番心に残っている出来事は何ですか？

金城は伝統があり、後輩思いの先輩たちがとても多いと思います。例えば、今年ゼミ旅行でイギリスへ行ったときにカタール航空を利用することになったのですが、カタール航空に就職した先輩が、後輩たちの出発日にセントレアまで見送りにきてくれました。卒業生もよく訪ねてくれて嬉しいです。

Q. 今後挑戦したいことは何ですか？

大学院の研究生になって、完成していない研究を続けたいと思っています。本学の図書館にはイギリス王立国際問題研究所の100年分のデータベースが備わっているので、それを活用する予定です。

Q. 学生へのメッセージをお願いします

失敗を恐れずにやってほしい、自分がやりたいと思うことを見つけてほしいです。出来ないと諦めるのではなく、出来なかったことから学べるといいです。成功・失敗を100%と0%で分けるのではなく、失敗を積み重ねて選択肢をたくさん持ち、その中からより良いものを選ぶように。成功の裏には100人の失敗があります。All or nothingではなく、結果がダメでもそこまで進んだ過程を大事にしてほしいです。

インタビューを終えて

国際情報学科の先生とは初めてお話をしました。大学で学んでいる分野とは全く関連がない分野で、初めて知ることも多く、今年で定年退職されるのが残念ですが、先生の授業を受けてみたいとすごく思いました。貴重なインタビューをさせていただきました。

(しおり)

学生との時間を大切にされている姿が印象的で、先生の温厚なお人柄に感銘を受けました。思わず笑ってしまうお話や驚くようなお話が多く、とても楽しかったです。そして「歴史を学ぶことは選択肢の一つを考える糧になる」といった言葉が胸に響きました。よく学びよく遊び、生きていきたいです。お忙しい中ありがとうございました。

(うまかほ)



*** 紹介された本（金城学院大学図書館所蔵） ***

『イギリスと日本』 請求記号：372.3/Mo64/(1)/B2

『民族という名の宗教』 請求記号：311/N12/ア/B2

『ワイルド・スワン 上・下』 請求記号：289.2/C523/(1), (2)

